

V 「農」と結びあえるまち—「農都・神戸」を築きましょう

農業の盛んな北区・西区の田園地域が、生活に潤いを与え、市内各地との交流の糸口となって「農都・神戸」のイメージを形づくっています。農漁業地域と市街地域の交流ができる“まち”、「楽農」という新しい楽しみ方が身近にできる“まち”、新鮮で美味しく、安全・安心な食が実現できる“まち”、自然への理解の深まる“まち”—など様々な可能性が広がります。

県民は、「農都・神戸」づくりに向けて、「農・漁」を学び、体験し、楽しんだり、農水産物の地産地消を進めたり、農業・漁業の後継者育成の仕組みづくりを進めましょう。

1 「農・漁」を学び、体験し、楽しみましょう

複線人生、オルタナティブな(もう一つの)暮らし方の楽しみを求める人が増えていきます。みんなで農を楽しむ生活「楽農生活」を、生産者と消費者が同じ地域にクラス、この神戸で実践していきましょう。

例えば、市民農園の利用状況や農作業が体験できる施設の情報を発信しましょう。市街地のイベントでは、神戸の「農・漁」を紹介する情報コーナーや神戸の食材を使った料理の紹介、家庭菜園の相談コーナーなどの設置を進めましょう。

○グリーン・ツーリズムのモデルコースをつくりましょう

- ・農漁業地域や農水産物を「見る」「食べる」「触る」グリーン・ツーリズムのモデルコースをつくりましょう。
- ・モデルコースづくりを通じて、農漁業地域と市街地域の交流を深めましょう。
- ・モデルコースを利用して、農漁業地域と市街地域の県民がお互いに顔の見える、質の高い情報の受発信を行いましょう。



農漁業直売所見学ツアー

○「農・漁」を学び、体験し、楽しみ、豊かに生きる楽農生活（アグリライフ）に進んで参画しましょう

- ・学校、地域、家庭で「農・漁」を体験し、「食」や「農」を考える機会をつくりましょう。
- ・大人や子どもは、「農・漁」に親しみ、「農・漁」の大切さを認識する、交流や学習の機会をもちましょう。
- ・学校給食や食体験の機会を提供して、学校や地域における食育を推進しましょう。

◇直売所見学ツアーを実施(H16、H17) (ビジョン委員会活動)

◇市漁業協同組合女性部が魚食普及活動を実施(イカナゴくぎ煮講習会、料理講習会など)

○市民農園の利用を通じて、農への理解を深め、生産物の「おすそ分け交流」を行いましょう。

○市街地の空き地などの有効活用を図りましょう。

- ・市民菜園や地域菜園をつくりましょう。
- ・市民の花壇をつくり、生活するまちに季節感ややすらぎを与え、高齢者の生きがいをづくりにつなげていきましょう。

◇真野地区の自治会、まちづくり推進会が、震災空き地に花を植える活動を実施(H16)

◇リサイクル堆肥を利用して花を植え、街路にプランターを設置するストリートガーデニングを玉津地区で実施

2 農水産物の地産地消のシステムづくりを進めましょう

「神戸の近郊農家では、どのような農産物が作られているのか」「神戸の漁港に水揚げされる魚介類にはどのようなものがあるのか」「直売所・朝市はいつ、どこで行われているのか」などを掲載した「農都・神戸マップ」づくりを進め、適宜情報を更新するとともに、農漁業地域と市街地域の県民同士の交流を進めましょう。

また、商店街の空き店舗などを利用して、神戸の農産物の直売所や農産物を紹介する「アンテナショップ」、「農都・神戸」の情報コーナーづくりを進めましょう。

○「地産地消」を進めましょう

- ・みんなで地元の農産・魚介・海産物を食べましょう。

○シンポジウム「農都神戸食文化会議」を開きましょう。

- ・消費者、生産者、流通業者、行政が同じ席について、神戸の農業、漁業、食文化について話し合しましょう。

○農漁業地域と市街地域の交流プログラム、農業地域と漁業地域の交流プログラムをつくり、実践し、食文化交流に発展させましょう。

○近郊野菜などの直売所マップをつくり、情報発信しましょう。

- ・神戸で採れた野菜や魚が現地で販売されています。いつ、どこに行けば手に入るかなどを掲載した、



農都・神戸マップ

楽しいマップをつくり、そうした情報を適宜更新するとともに、県民に広く発信していきましょう。

◇農都・神戸マップ『直売所、市民農園を掲載』を作成(H16) (ビジョン委員会活動)

○一人ひとりが自立した消費者になりましょう

- ・生産者との情報交流などを通じて、食の安全・安心が確かめられる、情報の選択もできる消費者になりましょう。

○ふれあい拠点づくりを進めましょう

- ・商店街の空き店舗などに、農産物の直売所や農産物を紹介するアンテナショップの設置を進めましょう。

3 農業・漁業の後継者育成の仕組みづくりを進めましょう

将来にわたって農業・漁業を展開するために、高齢化が進む農家などの後継者づくりをめざしましょう。個々の農家、行政、関係機関との連携のもと、新規就業者のための研修・支援の仕組みづくりなどを進めましょう。

○新規就業に意識革命を起こしましょう

- ・他人を後継者に、企業、法人組織、自営業などの多様な事業形態としての農業・漁業を進めましょう。

◇兵庫県農業会議などが新規就農の相談、実務研修を実施

○モデルケースからの情報発信を進めましょう。

- ・既に、新規就業者の研修受け入れ、雇用や後継者育成などを先導して行っている施設での現状を情報発信しましょう。